

# ふたつの「26歳」

## —日本山岳会は100年たった現在 何をめざすのか

江本 嘉伸

21世紀の到来とともに、日本山岳会の会員数がついに6000を超えた。同時に会員の平均年齢も、61歳になった。社会では「定年退職」の言葉でくくられる人たちが、日本でもっとも伝統のある山岳会の中核を占めたのである。登山という、本来激しく、パイオニア精神にあふれた行為のイメージからすれば、これは考えさせられることである。このまま進むと、65歳以上が日本の全人口の四分の一を超える、と予想されている2025年にはどうなっているのであろうか。すでに、この山岳会に若者の姿はほとんど見えない。ほんとうは「100周年」を目前にした今こそ、山岳会を創立した先人たちには想像もできなかつたであろう、「高齢元氣」の現状をじっくり眺め、次の100年に何をめざすのか、皆で深く議論することが必要なのではないか。

7月25日、越後支部主催の「高頭祭」に招かれ、「日本山嶽志」の著者、高頭仁兵衛の足跡の一端と、彼を偲んで毎年欠かさず集まり、偉大な先達を大切にしてきた越後の山民たちの心意気にふれることができた。たかとう・へい 幼名・式太郎、父の死後通称・仁兵衛を継ぎ、本名を式(しよく)海峰と号した。1905年、日本山岳会が誕生した際、財政面を支援したといわれる越後の地主、である(仁兵衛を「じんべい」と読む人も多いが、1948年越後支部発行の「越後山岳第二号」所載「高頭仁兵衛自叙伝」には、本人が「父の名を襲ぎまして通称を仁兵衛と改めまして……」と、ルビをふっている)。

以下のことは、山岳会史に精通している諸先輩方には無用のことだがしばらくお許し願いたい。

1905(明治38)年10月14日、日本博物学同志会の集会后、山好きの同好の士が飯田橋の富士見楼に集まって、山岳会立ち上げを決めたのが、日本山岳会誕生の日、とされている。地理学者である志賀重昂の『日本風景論』に刺激され、かのウオルター・ウェストンの示唆によって結成されたのだが、当時は、「山岳会」という概念がなかった。まして、日露戦争で勝利したものの、ポーツマスでの講和会議の結果、期待したロシアからの賠償金はビタ一文も出ないことが明らかとなり、日比谷公園で抗議集会が開かれるなど世間が騒然としていた時代である。そんな山好きの組織を作っても会員が集まるのか、財政が成り立たないのではないか、という不安があったため、とりあえず日本博物学同志会の「支会」として発足した。



2002年(平成14年)  
9月号(No. 688)  
社団法人 日本山岳会  
The Japanese Alpine Club  
定価1部 150円  
URL ● <http://www.jac.or.jp>  
e-mail ● [jac-info@jac.or.jp](mailto:jac-info@jac.or.jp)

### 目次

ふたつの「26歳」…………… 1  
報告…………… 4  
資料委員会・ミッテルレギ小屋  
改築「感謝の盾」が山研へ/科学委員会・気象講座/学生部・  
沢登り集会/自然保護委員会・  
第28回自然保護全国集会/ミニ  
水力発電小委員会  
支部だより…………… 8  
富山/宮崎/福井  
海外の山…………… 10  
東西南北…………… 11  
チャー・オユー隊議定書調印/  
合同祝賀会開催  
図書紹介…………… 12  
『チベット研究文献目録』『山と  
雲と蕃人と』『明治大学山岳部80  
年誌』  
さんけん通信・図書受入報告… 14  
Climbing & Medicine… 13… 15  
新入会員…………… 15  
会務報告…………… 16  
INFORMATION…………… 18  
ルーム日誌…………… 19

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間  
月・火・木 …… 10~20時  
水・金 …… 13~20時  
第2、第4土曜日 …… 閉室  
第1、第3、第5土曜日… 10~18時

## ■ はじまりの7人

“山岳会設立の主旨書”で発起人となった7人は、ほとんどが、東京府立中学の学生たちが中核となって組織する日本博物学同志会の会員でもあった。日本博物学同志会は、1900年「日本博物学会」としてやはり7人の動植物好きの学生たちが始めたもので、50人に増えた翌年「同志会」と改名し、機関誌『博物之友』の発行を決めている。

学生ではなかった高頭は、山岳会発足にあたり、財政面を保証する重要な役割を持った。「向こう10年間、毎年千円(初期の年会費は1円で、これは千人分の会費に相当した)を寄付する」という大変な決断で、心配した弁護士で植物愛好家の城数馬は、どんな人物か、と越後の高頭のところまで会いに行こうとしたほどだった。他の6人は東京在住者だが、高頭だけは地方にいて、人柄もわからなかったわけである。実際、新潟に向った城は、途中、信州で高頭と懇意の志村烏嶺(会員番号18番、後に国内初の山岳写真集『山岳美観』を著す)のもとに立ち寄り目的を告げると、烏嶺はすぐに電報を打ち、信州まで高頭を呼んで3人で話をす、という経緯となった。高頭は、

控えめな人柄で、資金面を保証したなどということは、後に明らかにされたことである。

『日本山嶽志』を著し、日本山岳会の財政面を引き受け、後に二代目会長となったのだから、相当の年配を想像するが、この時高頭はまだ28歳だった。

佐渡島を眼前にする緑の丘のレリーフを前に、先祖伝来の土地持ちとはいえ、あの時代、30前の若さで資金を保証した高頭の度量を思った。

日本山岳会誕生のエピソードで筆者が強くひかれるのは、発起人となった7人の年齢である。会員番号一番をもらった城は、いわば世話役の立場で、最年長の41歳。会の発足の中心的な動きをし、後に初代会長になった小島烏水(山岳会発足当時は会長はおかず、26年後の1931年に小島久太Ⅱ烏水Ⅱが初代会長となった)は32歳である。他は、いずれも学生で植物学専攻の武田久吉、蝶を専門とする高野鷹蔵とともに21歳ふたりは前述の博物学同志会の実質的代表であった。他にやはり植物研究で山に登っていた梅沢親光は、20歳、河田黙(しずか。後に山川と改姓)となると19歳の若さだった。日本山岳会の「はじまりの7人」の平均年齢は、実に26歳なのであった。

時代とはいえ、これだけの若さが日本ではじめての山の組織をスタートさせたことは、もっと知られていいことであろう。

彼らが何を考えて日本山岳会を立ち上げたか、は主旨書に明らかだ。

「欧州の『The Alpine Journal』の例に倣ひ、山岳専門の機関雑誌『山岳』を創刊し」と、うたったあと、「然れども本会の事業たる、単に雑誌発刊の事に止むべきにあらず」と、次のように続ける。

「山中に登山者宿泊の小舎を立つるも可なるべく、登山新路を拓くも可なるべく、全国に亘りて山岳案内記を出版するも可なるべく、各登山者間に連絡を通ずる方法を講ずるも亦可なるべし……」

心配された会員の集まりは、初年度には116名、その1年後には418名と、順調に推移していった。

日本山岳会の運営は、会費によってまかなわれる。財政的な基盤を確保するためには、会員は多いほうがいい。どちらかといえば恵まれた、大学出のエリートが多い組織とみなされたこともあって、いつのまにか「日本山岳会」は、ひとつの「ブランド」として成立するに至り「日本山岳会会員」という肩書きをほしい、と思う人々も増えていった。会員番

号まで印刷して名刺にされている方をよく見かけるが、会員になることは、ひとつのステイタスを得ることだ、との認識はいまもある。

多分そういう背景と何度かの登山ブームもあり、その後も会員数は増え続け、1990年代に入って5千人を超えた。100周年を目前にした今年2002年、6千人という盛況になったわけである(5月の総会では「5986人」と報告された)。

高頭たちの時代からすれば、大いなる飛躍だが、年齢層の片寄りは、著しいものとなった。実は6千人中20歳代以下は41人しかない。30歳代もわずかに211人、40歳代もまだ少なく542人、ここまで合計は794人である。ということは……50歳代以上の会員が5千人以上もいる、ということなんだろうか? まさにその通りで、5月14日の総会時時点では、なんと5127人が50歳以上である。ちなみに長寿国にふさわしく、90歳代の会員は42人いて、20歳代以下より多いのである。お年寄りと言わせないかくしゃくたる会員が多いことは、見事と言わなければならぬが、組織論からすれば明らかに先細りである。もちろん、高齢化は山だけの問題ではなく、日本という国の21世紀の

縮図とも言える面がある。いま時、60歳でフリーになった人間のパワーは大したものなのに、それを発揮する場が社会には少ない。熟年になって、好きな分野や、新たに見出した世界で、自分の力を発揮できることは、人としての喜びだ。今後もフリーの人間のパワーが、ある程度日本を席捲することは間違いないし、それ自体はいいのである。

ただし、それにしても登山はかなりの筋力、瞬時の判断力が必要とする行為である。平均年齢が80歳とすることがあれば(実際、こんなに元気な高齢者が多い以上いまやあり得ないことではない)、会員の多くは激しい登山はできなくなり、創立の趣旨も貫徹なくなるだろう。

若い会員を確保するために、執行部も多分知恵をしぼっている。理事会に「長期策定プロジェクト・チーム」が発足し、日本山岳会の「将来ビジョン」を模索しているのもそのひとつである。再発足した青年部が「きりぎりす」という若い会員向け機関誌を発行し始めたのも、若手からのやむにやまれぬ動きであろう。

それらを含めてはつきりしているのは、組織が生きて行くためには、「惹きつける何か」がなければならぬ、ということだ。社団法人の資

格と責務を有しているにも関わらず日本山岳会には、時代の変化に応じた「戦略」がほとんどなかった、と思う。きつい言い方をすれば、ブランドにあぐらをかいていれば、会員数だけは増えていったからである。

### ■セレモニーより新しい議論を

筆者は、母校の大学山岳部の学生たちと最近の十数年を山や都会でつきあってきた、青年たちのかかえている問題の一端は知ることができた。社会の反映で意外に学生たちは忙しい。山岳部員でも真面目に授業に出る学生がほとんどで、山にさける時間が少ない。ケータイ電話料金やコンビニ生活、それに交通費など日々



今年8月、剣岳長次郎雪渓で雪上訓練に励む大学山岳部員。山を志す若者は確実に存在する。(写真提供 伊東秀氏)

の暮らしと移動のための経費はばかにならないからバイトにさく時間は多い。

それでも、山は好きなのである。文部科学省が行う剣岳での大学山岳部リーダー研修につきあったことがあるが、雪渓でも岩場でもひたむきに取り組む本気の若者はいる。青年たちは本は読まない、と聞くが、14500冊を誇る日本山岳会の図書ルームは、学生部関係の利用者が圧倒的に多い、という事実も忘れてはならない。今も山の世界には青年たちを惹きつける何かがあるのだ。

私は、いまの日本山岳会にほしいものは、ゼロから山岳会を立ち上げた創立当時の気迫と、常識に縛られない発想の自由、そして良質のアカデミズムではないか、と思う。企業のような経済活動をしているわけではないのに、どこか会社っぽいところがあり、意味のない上下関係のよくなものがあり、本気の議論が少なく、との印象を受ける。それを察知して若者が敬遠するのも、実情を知らずに入会した人たちの中に早期退会者が多いのも当然だろう。

若者たちは、本気でやるおとなたちのことは、見ているものだ。知的な活動を含めてそういう人材が日本山岳会には、少なからずいる。でき

れば、会員ひとりひとりが自分の「良き仕事」を持つ、リーダーであってほしい、と思う。

若い人への間口を広げるため、この5月の総会で「26歳以下の会員は年会費を5千円とする」ことが決まった。平均年齢26歳の若者たちが立ち上げた日本山岳会が一世紀を経て、26歳の若者のために特典を考えねばならない点が歴史の皮肉であろう。前述の日本山岳会設立主旨書にはこんなくだりがある。

「惟(おもん)みるに、山は実には不朽の寿を有する巨人なり、天火を以て铸られたる儀表(注・手本、模範のこと)的銅像なり、全国民の重鎮として立たられたる天然の柱石なり、之を究むるは、永世の大業にて、且つ何ぞ今日不急の事と謂はむ……」  
山を究めることは「永世の大業」なのである。日本最古のこの山岳会は、次の100年で何をするのか。100周年を目前に、セレモニーや記念イベント以外に、まず議論することがあるのではないかと考え、この文章を書いた。このテーマは、実は多くの会員が気付いていながら、ふれずにきたことだと思う。山岳会の新しい世紀のために、会員諸氏の多彩な意見が巻き起こることを願っている。

## 報告

REPORT  
9月日本山岳会の各委員会  
同好会の活動報告です。

## 資料委員会

アイガー・ミッテルレギ小屋  
改築「感謝の盾」が山研へ

ミッテルレギヒュッテ改築計画の募金については「山」677号に村木潤次郎氏により、説明されている通りであるが、現地グリーンデルワルト登山ガイド協会より、昨年10月、この支援募金協力に対

する感謝の気持ちを込めた盾(写真参照)が届けられた。本会では、資料委員会が保管していたが、現品はグリーンデルワルト村と姉妹村の関係にある安曇村・上高地の「山研」で保存するのがふさわしいとの結論に達したので、このたび上高地へ移され、「山研」で展示保存することにしたので、お知らせする。(松田 雄一)



針葉樹の厚板(ヒュッテの建材)に旧小屋のマークのブロンズ製レプリカがつけられている(約20kg)

## 科学委員会

## 気象講座「山の気象」

恒例の科学委員会主催の気象講座が7月4日(木)、ルームにおいて城所邦夫会員を講師に迎えて開催された。

最初に、観天望気では全く予想できなかった天候の急変についての体験例を挙げて、それを予知しうる方法はあったのか否かについての質問に答える形で講座が始まった。

12月であったが、前日山頂で行った観天望気では無風快晴、大気が安定し、翌日の昼過ぎまでは雨が降らないだろうと思われた。そして非常に寒い夜を過ごした翌早朝、気温が急上昇し生暖かさを感じたので、温暖前線が通過したものと考え、もはや雨は降ることはないはずだと思った。ところが朝から全天雲に覆われ、やがて雨が降り出した。この天候の急変は予知できたのか、ということだった。これに対する講師の答えは「予知できた」ということであった。

その判断の仕方は、(1)この早朝の時間帯はまだ気温が下がる途中にあるはず。気温上昇で温暖前線

が通過したと判断したならば、なぜ通過時に雨が降らなかったかと疑ってみる。そして気温上昇は温暖前線接近時とは別の原因があるかもしれないと推察する。(2)気温が下降時に急上昇したことは、上層の気圧の谷が接近してきたものと推察され、それによって雨を伴った地上の低気圧が接近してきて雨を降らしたものと考えられる。

このようにして、標高の高い山では、平地よりも上層の気象現象を考えるべきだと説き、地上の天気図と上層の気圧の谷との関係を図をもつて説明され、加えて観天望気だけでは判断が難しいので、できる限り天気予報や天気図を参考にして、総合的に判断するのが望ましいと結論づけられた。

よく「梅雨明け10日は天気がい」と言われるが、実際はどうだろうと最近の傾向を調べてみたら、関東・甲信地方の最近10年間の梅雨明け後の連続好天日数は、平均8日となった。最近では気候変動が早めの傾向にあるとはいえ、関東・甲信地方の梅雨明けは、毎年7月20日となっているため、平年並みに梅雨が明ければ、27日ごろまで好天が期待できよう。

以上が講習の概要であるが、もとより天気図を読みこなせるわけでもなく、観天望気にそれほど自信があるわけでもないが、気を入れて聞き入ってみれば私なりに新しい収穫があった。(石橋 正美)

## 学生部

### 沢登り集会

去る7月6、7日に西沢渓谷において学生部沢登り集会が行われた。集まったのは総勢8名、少数精鋭である。6日(土)は2パーティーに分かれて行動。1パーティーは釜の沢から甲武信小屋經由徳ちやん新道、もう1パーティーは東沢本流下部(ほら貝のゴルジュ)を遡行。両パーティーとも遡行後東沢キャンプ場で合流し、学習院パーティーも加わる。

全員の無事と合流を祝ってビールで乾杯。買い出した材料をふんだんに使用し、大量のカレーを作ってしまった。みんなお疲れのようだが酒を飲みながら肴をつまみ、夜中まで山の話に花が咲く。ここ

に焚火があれば最高なのだが……。翌日も2パーティーに分かれ遡行する。鶏冠谷左保本流とヌク沢である。鶏冠谷左保から鶏冠尾根を下降したがちよっとした岩場などがあり多少楽しめる。ヌク沢パーティーは最後の大滝で時間をくつたらしく、下山は日が暮れた後となってしまった。

学生部主催の最初の行事であったので、多くの学生に参加してほしかったが、そううまくはいかないものである。8名と少人数ではあったが、他校との交流はよりいっそう深まったと感じる。夏以降もたくさん行事を予定しているので、多くの学生、その他の方の参加をお待ちしております。

(学生部委員長 北口 創尉)

### 自然保護委員会

#### 第28回自然保護全国集会

#### 北海道で開催

2002年度自然保護全国集会は、7月12日(金)〜14日(日)の3日間 にわたり、北海道支部と共催で大

雪山麓・北海道上川町にて開催された。今年は国連「アジェンダ21」の「国際山岳年」および「国際エコツアーリズム」の年にあたり、これを記念して「山岳エコツアーリズム」が開催されることとなった。JAC自然保護委員会は、これに協賛して自然保護全国集会を開催することとした。

7月12日(金)

16時、層雲峡の「ホテル大雪」にて受付開始。参加者は120名を超えた。明日の登山を控え、特にイベントは企画されていないが午前1時まで侃々諤々の自然保護談義を行った部屋もあった。

7月13日(土)

大雪山登山。山岳エコツアーリズムの趣旨に則った模範的な山登りをしようとな念な配慮がなされた。自然に対するインパクトをできるだけ少なくするためコースを5つに分け、さらに1パーティーは10人以下の班に編制され北海道支部のリーダー、サポーターが配置される。同支部には、この集会のために50人余の支部会員を組織してきめ細かい準備をしていた。コースは、①黒岳往復②お鉢周り

北海岳③朝日岳・黒岳縦走④赤岳・黒岳縦走⑤ニセイカウシュツペ山の5コースである。懸念された台風6号は何とか去ってくれたが、強い風と霧の巻くあいにくの天候であった。それでも全員無事故でエコ登山の目的を達することができた。大塚会長も元気に黒岳に登頂、範を示された。

温泉で汗を流し19時より懇親会。北海道支部中西会員の軽妙な司会が始まる。

まず大塚会長の挨拶。

「JACに於ける自然保護は、皆が山を愛し、山を大事にして登る

今年もさくせん  
で会いましょう



## ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをここが得意です。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。

**株式会社 アトラストレック**  
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町23 TEL.03-3341-0030  
 大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL.06-6946-9111  
 名古屋/〒464-0807 名古屋区千代田東山通り5-113 オークラビル6F TEL.052-788-2422



上川シンポジウム パネリストの皆さん 2002, 7, 14

ことである。大いに山に登ろう」と参加者を激励された。

次いで新妻北海道支部長の挨拶。"Act globally, think locally"を引かれ「山の自然保護は、地球規模で考え、そして地域の特性を配慮して行動する」ことを強調された。

最南端の九州の2支部を始めとして全国各地から集まった13支部が紹介される。自然保護に寄せる熱い思いが伝わった。そこで旧交を温める語らいが続く。

新妻支部長のリードによる山の歌の合唱で宴は閉じられた。

7月14日(日)

9時からの「上川シンポジウム」を控え、集会討議は7時半開始という強行軍となった。

①委員会活動報告。(篠崎仁自然保護委員長)

●環境省近畿地区自然保護事務所あて「大台ヶ原における利用(者)への政策提言」を関西支部長と連名で提出した。

●「フィールドマナー・ノート」に続き「山のトイレマナー・ノート」を発行した。

●早池峰問題も引続き活動している。

●「自然公園法改正」、「新・生物多様性国家戦略」が決定された。

●活用方法を検討していく。

●各支部から積極的に情報をあげていただき、東京の委員会と連携して活動を展開していきたい。

②「北海道の山岳地域における問題点」(北海道支部自然保護委員長・反橋一夫氏)

A高山植物の盗掘問題・夕張岳の大盗掘事件に端を発し「北海道希少野生動物植物の保護に関する条例」制定にいたる経緯について。

B山のトイレ問題

C日高横断道路問題・1984年

着工、2002年「止めよう日高横断道路」全国連絡会結成。2002年6月知事見直しを表明、正念場に来ている。参加者による反対署名が行われた。

③「大台ヶ原の自然保護」(関西支部会員、大台ヶ原・大峰の自然を守る会会長 田村義彦氏)

A昨年10月の全国集会と同月の31日に、環境省の検討会において大台ヶ原の鹿駆除案が決定された。

2002年度から向こう5年間に年間43〜45頭を駆除するという。

トウヒ枯死の原因がシカであるという科学的根拠がないまま、そして環境相自身がシカは増えていないことを認めているがらの決定である。パブリックコメントでも80%

が駆除反対であった。

B当地、キリギシ山のわが国最初の入山規制は、官民一体となった協力体制が築き上げられたことが成功の原因であったと昨年登山会に参加して痛感した。大台ヶ原もようやく環境省が規制を検討し始めた。

④高尾の森づくり(山川陽一自然保護委員)

自然保護委員会自らが行動する活動として高尾の森づくりを始め

て3年目。今年の植樹祭では1500本の樹を植えた。森林ボランティアとしての森づくり会員143名を中心に毎月定例作業を実施、ぜひ皆さんもご参加ください。

限られた時間で報告を終え、上川シンポジウムの会場、上川カミングホールに移動する。

基調講演小崎尚明治大学教授の「世界の登山道を歩いて」を聞いたあと、分科会V「登山者からみた山岳地域のオーバーユース」に入る。この分科会は、「山岳エコツーリズムフェスティバルin北海道2002」に協賛し、日本山岳会自然保護委員会と北海道支部の企画により開催されたものである。紙面の都合で講師名とテーマのみ紹介し、詳細な内容は自然保護委員会機関誌「木の目草の芽」に譲ることとした。

コーディネーター・向井成司(日本山岳会北海道支部副支部長) パネリスト・辻井達一(北海道環境財団理事長「山岳地域のオーバーユース」)

野田憲一郎(HAT-J理事) 「山のオーバーユースに関するアンケート調査」

大蔵喜福(日本山岳会自然保護

委員)「オーバーユースに対する諸外国の例(入山規制)」

阿地政美(旭川山岳会副会長)

「大雪山国立公園の適正利用の方策」

コメントーター・小林昭裕(専修大学北海道短大「収容力からみた大雪山国立公園の利用のあり方」)

パネリスト・コメントーターによる発表は、いずれも豊富な体験に裏付けられ、学問的水準の高い内容であり、300名におよぶ参加者と熱心な討議が展開された。

今年度の全国集会は、1日多い日程でかつ国際山岳年イベントに協賛という今までにないハードスケジュールでしたが、新妻支部長を始め北海道支部をあげての熱意あふれるそして綿密な企画・運営により成功裏に終えることができました。ありがとうございました。ありがとうございました。この集会での成果を今後の自然保護活動にぜひ活かしていきたいと考えております。(篠崎 仁)

### ミニ水力発電小委員会

### クリーンな電力の使い道

上高地山岳研究所のミニ水力発電も本格稼働に入り3回目のシー

ズンを迎えた。発電設備の維持管理をお願いしている管理人(木村太郎・弥生夫妻)の尽力により4月下旬〜10月下旬の開所期間を通して安定した電力の供給が可能になったことから、次の検討課題である「環境保全に役立てるような負荷の使い方」につき調査、検討

ならびに実現へ向けての負荷設置工事を進めてきたが、このほど工事が完成したので以下に報告する。

#### ■負荷設備の検討

発電機定格容量(1KW)の概ね75〜80%を上限として、次の3つの条件を満足する負荷ならびに使用方法を検討した。①合計消費電力が750W程度に収まるもの、②24時間を通して消費電力の変動の少ないもの、③実用的でかつPR効果の高いもの。

管理人を交えて検討した結果、トイレを始めとする地階各部屋の照明(白熱電灯)と換気扇、階段および1階の厨房の照明(同)に決定した。また、商用電源停電時に1階食堂において石油ストーブ運転用の電源と仮設照明用電源も欲しいことから、ミニ水力発電専用の停電用コンセントも併せて設けることとした。なお、従来から

行ってきたゴミ処理機や地階資料室の除湿器についても、負荷変動が許容範囲内であることから、継続して使用し、今回の負荷増設分と合わせて実験データをとることとしている。

#### ■負荷設置工事

2001年7月と2002年5月の2回にわたり(株)高電の協力を得て負荷設置工事を実施した。配線にあたりケーブル類は美観を損なわないよう極力天井内隠ぺいとし、やむを得ず露出となる部分は壁や天井の木目調と同色系に塗装したモールに収納した。1回目の

工事では、まず地階への階段と地階各部屋の照明を設置、2回目には森委員長自らもケーブル敷設作業に加わり換気扇のミニ水力発電系統への接続、停電用コンセントならびに厨房の照明の増設を行った。換気扇については既存の天井換気扇に水力発電/商用電源の切替スイッチを設け、通常はミニ水力発電の電力による運転が行えるようにした。

#### ■効果

もともと照度が低かった階段および日中も照明が必要な地階の廊下、トイレなどが常時照明される

ようになり、安全性と利便性が向上した。また、ミニ水力発電のクリーンな電力を照明や換気扇といった山研利用者の目に見える形で利用することにより、我々日本山岳会の自然エネルギー利用研究に対する取り組みのPR効果が期待できる。

#### ■今後の取り組み

引き続き共同研究先の神奈川工科大学より技術面の支援を受けながら、負荷変動に応じた発電機の制御方式の検討など設備運用面における課題に取り組んで行く予定である。(柴山 信夫)

高橋尚子のヴァーム活用方法は、

ダイエツトにも応用できる。

MEIJI 明治乳業

http://www.meinyu.co.jp

明治乳業株式会社

# JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況を  
レポートします。

## 富山支部

### 2002年のやま 駒ヶ岳(2002・5月)

昨年僧ヶ岳から登山道が開かれたばかりの越中駒に、標高と同じ2002年の中間に登ろうという夏の定例山行。6月8日、土曜日の晩、宇奈月温泉街の高台にたつリゾートマンションの一室に木戸支部長以下12名が宿泊。高柳事務局長の手料理についていコップが進み翌朝の早起きがつらかった。

宇奈月スキー場上部の平和の像で当日参加の永山会員と合流、3台の車に分乗して1043坪の駐車場へ。雨上がりのすがすがしい朝日を浴びて歩き出す11名。林道

を10分弱歩くと第三登山道入口、いよいよ登山道に取り付く。時刻はまだ5時半である。

私にとっては無雪期の僧ヶ岳は昭和57年の県体(烏帽子コース)以来20年ぶり。視界がひらけると眼下に黒部川扇状地や富山湾がよく見渡せる。7時過ぎに朝日岳をのぞむ雪田で朝食タイム。さすがにまだ残雪を踏む箇所が多いが、池にはモリアオガエルの白い卵塊がみられ、シラネアオイ、カタクリの群生地も多い。駐車場からちょうど3時間で僧ヶ岳山頂(1855・4坪)。

めざす駒ヶ岳は、中間のピークである北駒の奥に姿を見せ、その右には毛勝山が圧倒的な残雪の姿を見せてそびえる。ここから先はブナクラ峠改修グループ(代表水口武彬会員)の人たちが昨年開設した登山道を行く。稜線を忠実にきれいに刈りあげてあり、クツシヨンもきいて歩きやすい道だ。春先に馬の雪形があらわれる北駒ヶ岳のピークを過ぎ、鞍部から登り直すと岩峰が行く手をはばむ。ここは右に迂回する岩場にザイルがフィックスされている。

僧ヶ岳から1時間20分で駒の頂

上に立つ。三等三角点の横に2002・5坪の真新しい標識。黒部川をはさんで後立山連峰が目の前に屏風のように連なる。毛勝山の左には剣岳も顔をのぞかせている。記念写真を撮る間にも雲が上がり一部の山並が隠されてしまう。早立ちした甲斐があった。シラネアオイ、ツバメオモトなどが見頃のこの登山道を切り開いた人の苦勞を偲びながら再び僧ヶ岳へと戻る。そこにはたくさん登山者が待ち受けていた。

\*この駒ヶ岳の新しい登山道については、富山支部の佐伯邦夫会員が岳人6月号で紹介しています。

(山田 信明)

## 宮崎支部

### 大崩山夏山合宿

#### 格別だった幕営の楽しさ

■グループごとのメニュー比べ

花崗岩の牙をむきだしだした天空を突く小積ダキ岩峰が夏の陽光に輝く。九州最後の秘境と言われ、モミ、ツガ、ブナ、ゴヨウマツ、ヒメシヤラ、カエデ類、ナツツバキ、ミズナラなどの樹林帯を縫って流れる祝子川の渓谷美を誇る大崩山



大崩山、袖ダキにて 後方は湧塚岩峰(H14, 7, 21)

(1643・3坪)の夏山合宿。

宮崎支部の夏山合宿は、毎年山麓の公民館を借りて合同炊飯によって行われていた。今回、初めて食糧調達から炊飯まで、4、5人の小班編成で、それぞれのグループにおいて行った。

7月20日(土)、マイクロバスと連絡用の乗用車に参加者23人が分乗し、宮崎市を出発。午後2時登山口に到着。夏休み初日とあって県外の福岡・長崎・熊本・大分の車両がところ狭しと登山口付近に駐車してある。

登山口周辺を避け、林道終点に近い木陰の場所を選定し、テント11張を設営した。吹き出す汗をものともせず黙々と作業と料理に

没頭。作業後には一昨年開業した祝子川温泉「美人の湯」が待っているからであろうか。夕食会は、質素な中に各班自慢の料理を摘み食いしながら、アルコールの応援を得て快調に会話が弾む。

■行動時間10時間30分

21日(日)、4時起床、5時出発。ヘッドランプを頼りに登山開始、30分後にはランプ不要となる。朝焼けに金色に輝く小積ダキ岩峰に歓声があがる。「エーデルワイスの歌」の一節が浮かぶ。湧塚コースの丸太橋を渡り溪谷沿いの急登直下で朝食。インスタントみそ汁、メザシでにぎり飯を頬張る。鋭気が漲ってきたところで登り一辺倒のピッチに挑戦。袖ダキで湧塚、小積ダキの眺望を満喫する。急登が続く、上湧塚で再び岩峰に立ち、迂回して「リンドウの丘」に11時着、昼食。石清水を汲み喉を潤す。湧塚などの岩峰裏の顔を眺望し、豪快な水墨画の世界に固唾をのむ。40数年馴染んだ山でも山行のたびごとに装いを凝らして待っていてくれる、山よありがとう。

下山は、小積ダキ岩峰の岩肌に触れ、坊主尾根を経由して19箇所梯子を下り15時30分登山口着。

行動時間10時間30分の長丁場であった。落伍者もなく山に癒されて疲労感の中に満足と充実感があつた。テント撤収、清掃を行い、石清水で冷えたスイカに全員の顔がほころんだ。8月定例は鹿納山の溪谷廻行合宿が待っている。真夏の満天の星座の中にすばらしい夢を再び結びたい。(井野元 繁)

福井支部

白山親子登山コンプレックス

山登りという厳しい共通体験を通じて、自然の中で親子の語らい、きずなを深め未来に希望を持てるよう、第7回親子登山を80人の参加をみて実施した。

7月28日午前7時に福井を出発。10時、石川県白峰村の別当出合から登山開始。4班に分かれ、日本山岳会福井支部会員10人の指導で砂防新道、黒ボコ岩を通るコースを歩く。初めての登山という参加者が多く、一抹の不安があつたので、バスの中で登山の心得について5分間のスピーチをした。その効果があつたのか元氣よく午後3時ごろには、室堂ビジターセンターに到着。黒百合荘の指定された



親子80人が集まり、白山登山

部屋に入り、休む人や付近の自然観察をし、花々に感嘆の声を上げる親子など、ほほえましく感じられた。午後5時20分からの夕食には、親子の会話が弾んで聞こえる。落陽には、入道雲が稲妻とともに光り、また飛行機雲が白く東の方に消える。赤い太陽が雲海に七色の色彩を放ち、感嘆の声を上げる。また夜は満天の星となり、白山の山小屋泊まりの醍醐味を味わう。

翌日未明の3時30分、眠い目をこすりながらセンター前の広場に集まり、ヘッドランプの明りをたよりに山頂を目指す。4時30分に

は着いた。神主さんが近くの山やまについて説明される。4時56分ご来光、万歳三唱、親子共ども感動している姿に山の偉大さを感じた。6時20分朝ご飯をいただき、感動の余韻を残し8時10分には室堂を後にして下山、花の咲き乱れるエコーラインにコースをとり、全員無事別当出合に着いた。

バスの中で山登り55年の人生というところで、話をさせていただき参加者から大変喜ばれた。

山に登るのは努力の一步、人生を開くのも努力の一步ということ

(宮本 数男)

**ヒマラヤ 越えフライト (第10回)**

**ネパール・ヒマラヤ**

**トレッキング10日間**

11月1日(金)~11月10日(日)

●成田・福岡発着、成都経由カトマンズへ。

●機窓からの大パノラマをお楽しみください。

国土交通大臣登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ④ボンド保証会員

**アルパインツアーサービス株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

## 海外の山

## チベットの女

江本 嘉伸



チベットの母。グイサンは新しい時代の「チベットの女」だ (95年6月江本撮影)

夏の終わり、チベット女性をテーマにした珍しい映画の試写を見た。「チベットの女 イシの生涯」という。1950年代から現代まで、激動の時代を生きた農奴出身の美しい女性、イシが、3人の男——行商人のギャツォ、莊園領主の息子クンサン、幼なじみの僧侶・サムチューとの恋の物語を、失恋の傷を抱えて北京の大学から帰省した孫娘に聞かせる回想形式の劇映画。全編に「村の歌姫」と呼ばれたイシの歌声が流れる。チベット人がいまなお慕うツアンヤン・ギャツォ、すなわち300年前、23歳で夭折した、遊興詩人として知られるダライ・ラマ6世の恋の歌だ。

チベット人の文化、伝統を正面からとらえたこの映画のどこが珍しいかといえば、俳優はすべてチベット人なのは当然として、監督の謝飛(シェ・フエイ、数年前にはモンゴル人をテーマにした「草原の愛—モンゴリアンテール」をつくった)はじめ撮影、音楽、美術など主要なスタッフは皆、漢族でありながら、チベットの心をとらえているからだ。これまで中国が制作する「チベット映画」には、常に政治宣伝の臭いがつきまどつたが、この映画にはそれが無い。中国の芸術家たちが、ここまでの映画をつくったという現実にくうたれ、同時に、亡命していまでは故国の土を踏むこともできないチベット人たちのさびしさを思った。中国がダライ・ラマ非難ばかりでなく質の高いチベットの文化を紹介することは素晴らしいが、それだけ、外のチベット人の無念は深まるかもしれない。

チベットの女、といえば「日中友好チヨウ・オユー女子合同登山隊2002」のホームページが、おもしろい。日本側隊員たちがリリース式にトレッキングの様子などを同時進行のかたちで活き活きと伝えてくれているのだが、そのタッチが率直な感覚で書かれていていいのである。

9月のはじめの現時点ではネパールでのトレッキングにとどまっているため、チベット入りしての「本番」はこれからだが、日本側隊員がチベットの風土、女性たちをどうとらえたか、も登山の進行とは別に興味がある。すっかりお馴染みの「日中友好」だが、今回は、日本とチベットの女性たちの合同登山という点が新鮮なのである。言葉の壁、外交上の配慮など微妙な要素もないではないが、三〇代そこそこの女性隊員たちのチベット女性との交流報告に期待する。

二度、チヨモランマの頂きに立ったことで知られるチベット側隊長のグイサン(桂桑)は、44歳。1975年春、中国隊の女性のバンドウ(潘多)以下9人が登頂した際、18歳の少女だったグイサンは8600m地点まで登っている。「8300mの最終キャンプから酸素を吸いました」と言うから、強かったであろう。この時は足にやけどを負う不運もあり登頂できなかったが、1990年5月、中、米、ソの合同隊に加わり、念願の登頂を果たした。ロシア女性として初登頂したエカテリーナ・イワノワ(94年秋、カンチェンジュンガで遭難死)も同じ隊だった。これに飽き足らず、99年5月、41歳の時に再度登っている。「もとは、人民解放軍の病院で看護婦をしていたんです。73年、16歳の時に登山をやってみないか、と声をかけられたのがきっかけでした。トレーニングしたり7000mまで登ったりしているうち、だんだん登山が好きになってきて……いまは、外国の人たちと登るのが好きです」と、7年前「エヴェレスト・ウイメンズ・サミット」参加のため来日した際、グイサンは語った。山を通して国際的な活躍をする新しいチベット女性だ。「チベットの女 イシの生涯」は、2003年正月、5週間の予定で、東京都写真美術館ホールで上映される予定

# 東西南北

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、一点につき一〇〇〇字程度でお願いします)



イラスト・宇都木慎一

## 日中友好チヨ一・オユー女子合同登山隊 北京で議定書調印

西村 政晃

去る6月29日、日本山岳会と中国チベット登山協会は、人民大会堂においてチヨ一・オユー女子合

同登山隊の議定書の調印を行った。

中国側からチベット自治区人民政府尼瑪次仁主席、中国登山協会柴井封副主席など大勢の有力者が出席、当会から大塚博美会長ほか2名が出席した。はじめに大塚会長とチベット自治区体育局姬嘉局長が挨拶。大塚会長は1988年のチヨ Moran マ三国友好登山を土台にした、日中国交正常化30周年記念事業にふさわしい、意義深い女性会員による友好登山であり、ぜひ成功させようと呼びかけた。

続いて姫嘉体育局長と西村政晃常務理事が議定書にサインし、固い握手とともに取り交わした。

この式典には中国の国営テレビ日本のNHK、読売新聞など多くの報道陣が詰めかけ、数多くのニュースが流された。中国の日中国交正常化30周年記念事業への注目

の強さを印象づけるものだった。

## パドマナブ登山隊 チヨ一・オユー女子登山隊 合同祝賀・壮行会開催

高原 三平

日本山岳会は今年5月より7月にかけて、東カラコルム踏査・未踏峰パドマナム(7030m)登山をインドと合同で行い見事成功した。また8月より2カ月にわたり中国チベット登山協会と合同でチヨ一・オユー峰(8201m)に女子による登山を計画している。それらの合同祝賀会・壮行会が7月22日、東京新宿中村屋において招待者を含め約90名の出席のもと開催された。

まず冒頭、大塚会長よりねぎらいと激励の挨拶があり、前述の坂井広志隊長より行動概要の報告および謝辞があった。引き続き、後述の橋本しをり隊長より日本側隊員5名の紹介があり、中国側隊員とのチームワークを大切に登頂を目指したいと抱負が述べられた。

宴は松田雄一東カラコルム実行委員の乾杯の首頭で始まった。最

近の当会にはめずらしく女性の多い若らしい集いとなり、隊員を中心とした話に大いに盛り上がった。最後、小倉童子永年会員が、「チヨ一・オユー登山は久し振りに女性だけの隊で嬉しく思う。じっくり楽しんでもらいたい。そして次の世代、後輩を育て当会の活性化につながることを望む」と締めた。

●会員各位に大好評のチヨ一・オユー女子登山隊のHPはこちらか  
5. <http://www.jac.or.jp/>



北京・人民大会堂に日中の登山隊関係者が集まった

**自分の想いを、「本」にしませんか。**

—— 山岳書をつくるプロが、発刊のお手伝いをします ——

山行記録集のほか、紀行・随筆・歌集・句集・詩集・写真集・記念誌などを、お望みの形や様式でつくることができます。まずは、お気軽にご相談ください。

■詳しい資料をお送りします。お問い合わせ・お申し込みは——

編集プロダクション  
**TAKEUCHI** 制作室  
GRAPHIC ARTS & EDITORIAL

Tel.075-604-3120 Fax.075-604-3123  
E-mail takeuchi@fd3.co.jp

〒612-8427 京都市伏見区竹田貞徳木町55番地 F.D.サン

## 図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

索文清・編

### 『チベット研究文献目録』

書名のとおりチベットに関する研究文献目録であるが、内容は中国語の文献目録と日本語の文献目録の二つの部分からなる。

中国語の文献については、1949年から1998年までの50年間に中国、台湾、香港で出版されたチベットおよびその周辺地域を対象とする研究文献2416点が総合、歴史、宗教、経済、政治・政策、民族誌・文化誌、科学、教育、言語・文字、文学、芸術の11の分野に分類して収録されている。この中には、公式には出版されていないがチベット自治区や四川省などでとりまとめられた資料につ

いても「内部資料」として収録のほか、翻訳書も収録されている。

また、日本語の文献については、1945年から1999年の間に日本で刊行された、チベットおよびその周辺地域を対象とする文献1319点を、前記分野のほかに医薬・医療、登山を加えた13分野に分類して収録している。

編者の索文清氏は1936年生まれ、中央民族大学教授。1999年現在東京外国語大学客員教授。類書の1982年亜細亜大学・アジア研究所発行『チベット研究文献目録』は1877〜1977年の文献目録であり、本書によって最近時点のものがカバーされる形になった。(南川金一)

1999年11月 風響社発行  
278ページ 4000円

鹿野忠雄・著

### 『山と雲と蕃人と』

台湾高山紀行

60年ぶりに新装復刻された紀行本である。本復刻の前、2000年に台湾で翻訳版が出た。本著を愛読書としてきた台湾の登山家楊南郡氏が足跡を追って検証した詳細な注等を付けて出版したもので、

その翻訳版等から鹿野の世界を伝える写真、地図、年譜、解説、エッセイなどが収録されている。

小学生の頃から昆虫採集を始めた著者は、台湾の標本に魅せられ創立当時の台北高校に進んだ。学生時代は台湾の山に旺盛な登山を行う。また山での先住民との触れ合いが、博物学・生物地理学から後に人類学へとつながる。

本書は1931年、東京帝大2年生の夏を主に、台湾中部の新高山を取り巻く山域の7つの探検登山記録と「新高雜記」である。当時、日本領であった台湾では先住民の一部に帰順への反乱が起った時期。原始の静けさが残る4千坪近い新高山周辺の山やまに行動力溢れた登山を行い、単独または先住民と行をともしながら初登攀・新登路の記録を作っていく。

多彩な紀行文が本著の特徴である。植物・生物・先住民・地理・山岳が研究者の正確な目と詩的な心で描かれ、また登山者の思いを表現している。

本復刻版には蕃人など歴史的表記がそのまま残されているが、それは先住民を軽視する意味ではない。

探検登山と地についた学術研究とが紀行文学としてみごとに融合し、現代においても読者を魅了すると思う。(三栖寿生)

2002年2月 文遊社発行  
438ページ 3500円

明治大学山岳部・炉辺会・編

### 『明治大学山岳部80年誌』

MAC・炉辺会80年の歩み

本誌は、5月31日に開催された「創部80周年を祝う会」に合わせ上梓された、明治大学山岳部(略称MAC)の80周年記念誌である。

従来から定番となっている、この種の記念誌とは異なり、その60%が、鳥山文蔵氏による「MAC・炉辺会の歴史各論」で占められており、従来の型にとらわれな編集方針でまとめられている。

巻頭言、写真ページに続く第一章「MAC 80周年総論・80年の年輪を読む」で、大塚博美氏は、MACの創立期から現在にいたるまでの概要について「年輪」という切り口で回顧と展望を述べている。

その太い年輪としては、大学創立80周年記念のマッキンリー登山

(1961年)、創立100周年のエヴェレスト西稜(1981年)、そして創立120周年には、8千円峰14座の完登を目指して、ドリム・プロジェクトをあげている。すでにその第一部として2001年には、ガッシュブルムI峰、II峰の連続登頂に成功。その第二部として今回のローツェ、アンナプルナ峰の計画が実施にいたったことが述べられている。

なお、これらの周年記念事業には山岳部長の小崎先生らによる学術班も同行し成果をあげているが、これを通じて、大学当局との間に相互理解と協力関係が深まったことも特筆される。

第二章は、「MAC・炉辺会の海外登山(80年の歩み)」と題し、平野炉辺会会長が、海外登山の成果をまとめている。この中では、3M作戦と称した各ルートからのエヴェレストへの挑戦が特筆される。一方、日本山岳会による主要な計画には、数多くの炉辺会会員が隊の中核として参加しており、ほかにも、あらゆる機会をとらえて、他のグループの計画にも、個人として積極的に参加し経験を積んでいったことも特筆される。

このような経験を通じて、植村直己のような人材も輩出し、高所に強いメンバーが充実していったことがわかる。その反面、栄光の影に植村直己、大西宏らの遭難事故があったことも忘れてはならないと、光と影についてふれている。

第三章「MAC・炉辺会の歴史各論」は本誌の中心部分とも言うべきもので、その内容は多岐にわたっており、「総合年表、海外の山への遠征・探検の足跡」「炉辺——バックナンバー」「MAC・炉辺会の関連出版目録」「MACをささえてきた人物誌」「山行・合宿と年度方針の歷程」「MACのケルン——山岳遭難・事故白書」「忘れえぬ人々」「部室の変遷」「委員会……組織の変遷と活動の歩み」「炉辺会の設立と人物史」の内容が収録されている。その内容については、大塚氏も、第一章の冒頭で、本編の基礎資料をまとめた鳥山文蔵の異才と努力には、心から賛辞を送りたい。これは未踏の荒野を開拓するに匹敵する凄い力仕事だといっても過言ではない、と記しておられるが、評者も全く同感である。裏方にこのような人材を擁する炉辺会が羨ましい。

しい。

第四章「MAC・炉辺会の展望」は巻末資料のアンケートとともに出版担当理事の原田暁之氏によりまとめられている。筆者は資料によると平成2年に卒業後11年の長きにわたり、MACのコーチを務めている。その間、レベルを落とさずに、部員を増やすには、どうすべきかという切実な問題に取り組んだ結果を、この章にまとめていく。それによると一時は部員が2名にまで減少したMACも、平成7年には13名にまで回復し、その年の夏には、高橋隊長のもとインド・ヒマラヤのガングスタン峰で合宿し、学生全員が登頂して再建計画は軌道に乗った。このようにして若手が充実した結果、強い全員登頂のMAC軍団が誕生し、マナスル、GI、GIIの全員登頂を果たし、いよいよ、ドリム・プロジェクトの最後の仕上げに向け、ローツェ、アンナプルナの登頂も秒読みにはいつている。

しかし、華やかなヒマラヤでの素晴らしい成功の裏側では、部員の減少が目立ちはじめ、平成13年度末には、再び上級生2名になってしまった。この対策として、昨

年度には高野監督らの協力を得て、炉辺会の会員にもアンケート調査を行う一方、最近の高校生の実態を調べるべく、高校生および高校教師にもアンケート調査が行われた。その結果が巻末資料に掲載されている。その成果が反映されてか、本年4月には久しぶりに6名の新入部員を迎え、壮行会の際には頼もしい部員が勢揃いして紹介された。

どこの大学山岳部でも、将来への展望は、若手がいかに増えるかにかかっている。その意味でも、本誌の第四章は、参考になる。

最後の第五章「学術」では、地理学を中心としたマッキンリー以降の学術調査の報告が、岡澤修一氏により整理されている。

MAC・炉辺会の今後ますますの発展を祈念する次第である。

(松田雄一)

平成14年6月 明治大学山岳部・炉辺会刊 315ページ

非売品だが希望者は左記に申し込めば頒価(送料共) 2千円で入手可能。

申込先 〒162-0813

新宿区東五軒町1-9

前田印刷株式会社内 平野宛

# 平成14年度「海外登山基金助成登山計画」募集について

## 海外登山基金委員会

日本山岳会は登山界の活性化を目指して優れた海外登山計画に対して「海外登山基金」による助成を行っています。1988年に実施された三国友好登山隊の成果を基に平成元年(1989)に創設されたもので、これまでに選考された30以上の登山隊に対し、合計2千万円を超える助成を行ってきました。

14回目となる今回も、困難を求めての挑戦、発想の新しき、夢多い計画などユニークな登山計画を支援したい、と考えています。

登山といっても多様なスタイルと発想があります。単に頂上を目指すにとどまらず、新たな課題を発見することも、新世紀の登山にとって大事なことでしょう。

パイオニア精神にあふれる様々なジャンルの挑戦であればぜひ歓迎したい、と考えてお

ります。単独、パーティーを問いません。ふるってご応募ください。

記

- 対象 平成15年2月1日～16年1月末に海外の山へ出発する登山隊。
- 申込方法 所定の様式(本会事務局にご請求ください)に記入し、登山計画書(15通)を添えて申請してください。
- 申込締切 平成14年12月31日。
- 審査と助成期間 平成15年1月中旬に審査後、2月の日本山岳会理事会で決定し、助成します。なお、対象となった登山隊は後日、登山報告をお願いします。
- 助成金総額 160万円
- 問合せ・申込み先 日本山岳会事務局  
電話03-3261-4433

### さんけん通信

#### 台風の爪あとと恵み

管理人 木村太郎・弥生

今年も台風情報が気になる季節となりました。この季節になるとちょっとおもしろい現象が見られるようになります。それは、天気予報で台風が近づいているという情報が流れたその翌日には、松本のスーパーなどで、上高地で働いている顔見知りの従業員の方たちに大勢会うことです。みんな「台風が近づいているから食料確保しておかない

とね」という言葉を口にしながら、スーパー内を右往左往しています。

私たちもご多分にもれず、台風が近づいているという時は大急ぎで買出しに下り、大急ぎで上高地に戻ってきます。というのも上高地線(釜トンネル-上高地バスターミナル間)は台風シーズンに限らず、度々雨量規制による通行止めがあり、通行止めの時間が長いと文字通り陸の孤島のような状態になってしまうためです。

今年の7月に来た台風7号は、雨台風だったのですが、思いのほかそのダメージは大きく、上

高地から明神方面に向かう道は何か所も土砂が流出していました。また、明神の手前では立ち往生した清涼飲料水の配達用トラックが車体の半分を土砂に埋められた、ということもありました。このように大きな爪あとを残していく台風ですが、台風が去った後の森はなんだかキラキラと輝いて見えます。たっぷり水を補給され満足しているように感じられるのです。暴風でなぎ倒されてしまった木々も少なくないのですが、森全体にとっては、台風でさえも恵みのひとつになっているのかもしれない。

### 図書受入報告 (2002年6月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
菊地敏之(編)	最新クライミング技術:New Standard Climbing Technics	224pp/21cm	東京新聞出版局	2002	出版社寄贈
荒賀憲雄	山嶺記:荒賀憲雄詩集	146pp/22cm	洛西書院	2002	著者寄贈
大山の歴史編集委員会(編)	大山の歴史	953pp/27cm	大山町	1990	発行者寄贈
関西を考える会(編)	関西の山風土記:山を通して見る関西の歴史と文化	108pp/30cm	明治生命保険相互会社	2002	発行者寄贈
シンポジウム組織委員会(編)	「第2回陸上競技の医科学・コーチング国際会議」& 「第5回高所トレーニング国際シンポジウム」講演・発表論文集	196pp/30cm	シンポジウム組織委員会	2002	発行者寄贈
Mason Florence et al.	Hiking in Japan	440pp/19cm	Lonely Planet	2001	購入

## Climbing & Medicine · 13

### 高所登山と水分

塩田 純一

高所に登る時にたくさんの水分を摂るということは半ば常識になっている。従来の欧米の教科書によると、1日数リットルから10リットルと書いてあるものまでさまざまである。高山病に関しては、日本ではハウストンとハケットの教科書が有名で、翻訳もされている。

そのハケットが昨年“N Engl J Med”という医学会では世界的に権威があり、日本でもほとんどの病院で読まれている雑誌に高所障害の総説を掲載した。その中で水分の問題にはあまり触れられておらず、「水分を余分に摂ることが高山病を予防するという科学的根拠はない」とだけ記されていた。たくさんの水分を摂ることが高山病の予防につながると考えていた我われにはいささか驚きの表現であった。3カ月後の同誌にカトマンズの医師からの反論が掲載され、脱水症状は高山病の症状に類似するし、高山病の悪化を助長す

るので我われは水分を適度に補給することを勧めていて、目安としては尿が透明に維持できる程度の量だとの意見を述べている。これに対しハケットは高所では脱水になりやすいが、高山病と水分の科学的因果関係は認められていないとの答えであった。

これらの論議をどう解釈するか難しいところではあるが、運動生理学の立場からは高山病はともかくとして脱水は多くの代謝障害を引き起こし、さまざまな問題を引き起こしかねないのは確かである。高所に上がり、乾燥寒冷地でハアハアと過呼吸になると毎時0.2リットルもの水分が呼吸に失われることもあり、十分な水分摂取ができない環境にある登山者は脱水に陥りやすい。

我われ日本人は食事から摂る水分量が最も多く、高所では通常の食事より携帯食品や乾燥食品など水分含有量が少ない場合が多く、またお茶を飲んだり清涼飲料水を買って求めたりする機会も少なく、一般に水分摂取量が低下する傾向にある。このことから尿がクリアに保たれるように多めの水分を摂りながら登山し、一方で脱水の危険はないところで5リットルも10リットルも教条的にむやみに水分を摂ると、水中毒になるなどかえって危険であると考えるのが妥当であろう。

# 会務報告

## 7月理事会

日時 7月10日(水) 18時30分～21時

場所 日本山岳協会議室

〔出席者〕 大塚会長、長尾、村井、芳賀各副会長、西村、坂井、高原、朴元、藤本、宮下、松原、鈴木、河西、高遠、大野、中村、鳥居、小川各理事、古市各監事、宮崎、宇田川、鰐坂各常任評議員

〔委任〕 今村、黒川各理事、内田監事、平林常任評議員

◎議事に先立ち、大塚会長の挨拶。「9月より100周年記念事業準備委員会を発足させる。できるところから始めたい。」

また、日印合同東カラコルム踏査・パドマナブ峰(7030㍎)登山から7月8日帰国した坂井日本側隊長より「全員無事、当初の目的を達成して下山。登頂は6300㍎のキャンプより、往復16時間に及ぶ厳しい登攀だった。踏査した350㍎は、外国人として貴重な地域であった」などの報告と謝辞があった。

## 〔審議事項〕

1 東ネパールの未踏峰タンギ・ゴイ・タウ(6938㍎)中高山登山の実施について 朴元

集会委員会は「より多くの会員が共に楽しむ登山を企画、実施すること」を心がけて活動してきた。会員の平均年齢の上昇が目立つなかで、若い時国内の山で過ごし、海外の山に憧れた方が少なくない。中高年の会員から海外登山の実施をとの声を上げるのは当然のことと思う。「ヒマラヤの高峰を自らの力の範囲内で思い切り楽しもう」との趣旨で計画したい。概要は以下のとおりである。

〔隊の名称〕タンギ・ゴイ・タウ日本山岳会中高山登山隊2003

〔目的〕タンギ・ゴイ・タウ(6938㍎) 峰初登頂

〔期間〕2003年4～5月の32日間

〔隊員〕12名(国内)

〔費用〕参加者負担(承認)

2 一橋大学山岳部OB会からの寄付金受領について 村井副会長

一橋大学山岳部OB会(石原会長)より、同会の創立80周年を記念して100万円の寄付の申し出があった。ありがたく受領したい。

なお、使途については同OB会の意向を尊重して決めたい。

(Japanese Alpine News) に使ってもらいたいとの要望が出ています (承認)

## 〔報告事項〕

1 日・中友好チャーム・オユー女子合同登山隊の議定書調印等について 西村、村井副会長

●6月29日、北京・人民大会堂において、当会より大塚会長、西村常務理事(長尾副会長代行)、橋本実行委員が出席して、中国チベット登山協会と議定書に調印を行った。

●会計措置として、中国チベット登山協会への支払い金額1万5千ドルは会の仮払いとす。

●読売新聞社の後援が決まった。また、日本テレビ「ズームイン朝」で放映も計画中。

●郵送による募金対象者は役員等関係者のほか、約830名の女性会員全員とした。

2 日・中友好チャーム・オユー女子合同登山隊支援トレッキング隊の計画について 松原

別紙のとおり標記支援トレッキングを実施する。概要は、チャーム・オユーおよびチャーム・オユーの

両BCを訪れる。期間は9月17日より29日までの13日間。募集人員は最低15名、30名位集めたい。出発まで期間がないので隊員集めの協力依頼があった。

3 長期改善計画策定プロジェクト検討会の報告および意見聴取について 西村

検討メンバー(4月理事会決定)による長期改善計画策定のための第1回検討会を5月25日、6月8日、7月4日の3回開催し参加者より意見を聞いた(別紙記録あり)。それを基に意見を募った。出された意見は以下のとおり。

●委員会の統廃合が必要。

●自然保護活動を通じて人を巻き込んでいく(若い人を含めて)。

●会員としてのメリットが明確に言えない。

●入会資格(審査)が本部、支部分間によって大きな違いがある。

●最近の若者は、山のスタイルはバラバラでも、仲間と一緒にいるのが嬉しい。

●観念論でなく具体的にこつこつやることだ(それが評価につながる)。属人的活動と思うが。

●山岳会としての基本的データ(日本のヒマラヤ登山史等)が整

理されていない。また、ペーシツクな情報入手活動もやっていない(最新のネパール登山申請手続きなど)

4 各委員会報告

①総務委員会

高原

●既存規定類の整備について

当会には、会の運営等について定められたルールがたくさんあることが判明した。それらの見直し整備を行いたい。関係委員会(総務、財務、資料、山研)への協力要請がありました承された。来年1月完成を目標とする。(資料あり)

●ビールパーティーを9月4日(水)19時より当会ルームで計画している。会費は一人2千円。

②財務委員会

村井副会長

●6月末までの会計報告があった。今年度の新入会員は121名。

●経理担当事務局員候補者が横内宏美さんとの紹介があった。

③会報編集委員会

今村

7月号は、渡邊玉枝さんの「サガルマータ登頂——2人で楽しく気負いなく」がトップ記事。

④資料委員会

鈴木

上高地山研において、7月8日より8月末まで、写真展「空撮日本の山」(大森弘一郎氏撮影)

を行う(再紹介)。

⑤自然保護委員会

河西

●富士山エコ・フォーラム(国際山岳年日本委員会主催)が7月6日、1200人が参加して富士宮市で開催された。大塚会長、河西理事が出席した。

●山岳エコツアーリズムフェスティバルin北海道2002(国際山岳年日本委員会等主催)が7月12日より15日まで、旭川市周辺において実施予定。(当委員会および北海道支部が共催)

●(財)国土緑化推進機構に対し、今年度高尾の森支援金300万円を申請した(今年度が最後)。

⑥海外委員会

中村

『Japanese Alpine News』での交流がもとで、フランス、アメリカの山岳誌への寄稿依頼がきている。

⑦山研運営委員会

小川

山研管理人の木村さんより、上高地におけるインタープリテーションの実施報告があった。

今まで3組に実施、なかなか受講者の評判は良好だった。ただし途中雨になったり、体調を壊した場合の対応など検討課題もある。

5 その他

①日・中友好チャーム・オユウ女子合同登山隊の橋本隊長と大窪隊長より挨拶があった。

②ネパールのポカラ山岳博物館ソフトオープニング記念式典(5月29日開催)に出席した神崎忠男氏より、その様子がVTRで報告された。1996年着工で、予定では1999年グランドオープンだったが遅れている。地元の人々は観光のスポットとして歓迎している。

■会員異動

鈴木 正俊(1494)02・6・28

稲垣礼吉	(11046)	02・7・11
倉島 正吉	(5535)	02・7・28
小松 久雄	(6522)	02・7・30
退会		
板倉 健二	(8628)	
田畑 郁	(8682)	
高橋 実万	(10179)	
園山 鋭一	(10494)	
村田 廣典	(11169)	
松本 明子	(11178)	
菅野美智恵	(12543)	
終身会員		
吉川 尚郎	(5099)	
山崎 幸和	(5403)	

「山の本」夏の新刊発売!!

四国の山を歩く

尾野益大 著 四六判 300頁 本体1,900円

四国の山々50余座を、史跡、植物、景観など山の個性に光をあてて案内する四国初の本格的ガイド紀行。

●再版出来

エベレスト 61歳の青春

川田哲二 著 A5判 280頁 本体2,400円

1970年、8千米峰の中で最難といわれたダウラギリ第2登に成功した著者が、61歳で憧れのエベレストに挑む。

御嶽の風に吹かれて—開田高原への招待—

久山喜久雄 著 四六判 180頁 本体1,900円

木曾御嶽の東麓、雄大な自然と文化の脈打つ開田高原に暮らす人々の姿と四季の移ろいを綴る。

カラコルム・ヒンズークシュ登山地図

〔付〕カラコルム・ヒンズークシュ山岳研究

A4変型判 上製美装ケース入 385ページ B全判地図13葉

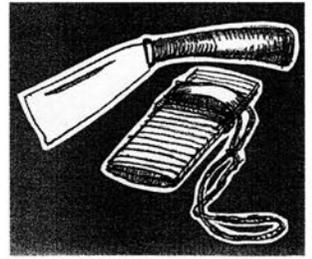
宮森常雄・雁部貞夫 共著

◎好評発売中!! 定価(本体33,000円+税)

ナカニシヤ出版

〒606-8316 京都市左京区吉田二本松町2  
Tel.075-751-1211 Fax.075-751-2665  
URL http://www.nakanishiya.co.jp/

INFORMATION



イラスト・宇都木慎一

◆講演会「いわゆる機能性新素材製の下着類の性能について」

科学委員会

多彩な登山用下着類の特徴・性能の説明文に見られる「吸湿発熱素材」「環境温度適応機能」などの多様な表現の読み方、実性能の推測について伺います。

日時 10月17日(木)18時30分〜20時  
会場 日本山岳会集会所

講師 織方郁映会員(科学委員会委員)

問合せ 丸山修一 (TEL 03-5212-7035 メール kagaku@jac.or.jp)

◆焼岳登山と講演会「中高年の高所登山およびトレッキング」

山研運営委員会

秋の焼岳を満喫し、講演会で教養をつける欲張りなプランです。

日程 10月19日(土)〜20日(日)

行程 山研↓中の湯温泉↓焼岳↓新中尾峠↓山研(泊)

講師 大蔵喜福会員

費用 1万円(宿泊、食事2回、保険)

定員 20名

申込・問合せ 10月14日までに柴山

信夫宛 (〒214-0003

2川崎市多摩区枋形3-2

・2-103 TEL 044-

900-3439 携帯0

90-8331-4212

メール sibasana@sannet

ne.jp)

◆中央構造線露頭実地研修山行

山の自然学研究会

中央構造線とその断層を見に行こう。はるか1億3千年前の日本列島成因のスタート時期を伺い知ることが出来る。ここ伊那谷には自然のままの三大露頭があり、これを現地検分すると中央構造線の存在がうなずけるのが不思議だ。

日程 11月2日(土)〜3日(日)

行程 2日朝JR荻窪駅青梅街道

口集合↓諏訪IC↓高遠↓

溝口露頭↓北川露頭↓鹿塩

温泉(泊)↓中央構造線博

物館↓案康露頭↓松川IC

↓荻窪

費用 2万3千円(資料配付・交通費・宿泊代)

定員 20〜25名

同行 白木幹司 S.L堀内弘栄(説明員) 船橋明ほか

保険 国内交通障害保険に加入

申込 10月15日までに堀内弘栄宛

(FAX 044-977-62

49)

\*一般会員の参加も歓迎です。

◆第8回伊吹山播磨祭 98同期会

日程 11月3日(日)〜4日(月)

集合 近鉄養老線揖斐駅11時

会場 岐阜県春日村君が代公園

催し 播磨上人顕彰碑除幕式

シンポジウム・長者の里(泊)

山行 宿泊地より鍋倉山 4時間

費用 1万円

申込 稲葉省吾宛(岐阜県安八郡

神戸町落合124 TEL 05

84-27-7247)

\*申込者には詳細を送付します。

◆講演「登山と低体温——モンブ

ランからの生還」 医療委員会

日時 11月9日(土)16〜17時

講師 船木上総氏(医療法人平成

醫塾・苫小牧東病院理事)

場所 杏林大学医学部基礎医学研

究棟3F会議室 連絡先 大野秀樹(〒181-8

611 三鷹市新川6-20

・2 杏林大学医学部衛生

学公衆衛生学教室 TEL&FAX

0422-44-4427

メール ohnoh2o@kyor

in-u.ac.jp)

\*参加費無料、参加資格なし

◆東部ネパールの未踏峰タンギ・

ゴイ・タウ(6938m)登山隊

員募集

前号でお知らせした東ネパールの未踏峰タンギ・ゴイ・タウ中高年登山隊の概略が決定しました。

登山日程 平成15年4月12日〜5

月16日

募集人数 12名

参加費用 100万円

参加資格 50〜65歳

\*過去のJAC主催の海外登山経験者にはご遠慮いただきます。

申込 10月末日までに氏名、住所、

会員番号、電話、FAX、

メール、過去の登山経歴を

記入し、手紙またはFAX

にて高橋聰宛(〒102-

0072 千代田区飯田橋

2-12-10 FAX 03-32

22-0908)

\*電話受付は一切いたしません。

本計画は中高年のみによる本格

的なヒマラヤ高峰登山を目的とし、計画を完遂するために参加者に、通常の海外登山と同様にそれぞれ役務分担をお願いします。過去のヒマラヤ登山経験は問いません。なお、参加希望されても、必ずしも隊員として選考されるとは限りませんのでご了承ください。

◆先人を訪ねてシリーズ  
『太田・金山と木暮理太郎の生地を訪問』

96年同期会

木暮理太郎の出身地は群馬県太田市です。生家の傍にある石碑を見学し、木暮理太郎にとって故郷の山である中世難攻不落の山城、金山に登ります。

日時 11月10日(日)

係り 遠山元信 (TEL 048-771-0053)

申込 10月31日までにハガキにて

係までご連絡下さい。計画書を郵送いたします。

\*同期以外の参加も可能。

◆飛騨高山晩秋の山旅  
位山、川上岳の集い 98同期会

飛騨高山の南に位置する位山、

川上岳は、乗鞍岳、御岳山、白山などの絶好の展望台となり、初冠雪がのぞめるかもしれません。

日程 11月9(土)〜10日(日)

行程 9日17時までに現地集合、19時より懇親会

10日/A位山コース/モンテウススキー場/位山・B

/萩原町登山口/川上岳/C・位山/川上岳縦走(健脚向き)/D・飛騨高山散策(いずれも現地解散)

宿泊 飛騨久々野の民宿を予定

会費 約1万2千円(宿泊、弁当、宴会)

申込 ハガキ、FAX、メールで

正田範満宛 (〒346-0002 久喜市野久喜549-1-723 TEL&FAX 0480-24-4626

メール fwpj1664@mb.infoweb.ne.jp)

◆志摩春彦水彩画展 「戸隠の四季」

山の絵も多く見ごたえ十分です。

日程 10月1(火)〜31日(木)

場所 戸隠小屋(長野県上水内郡戸隠村越水ヶ原 TEL 026-254-3333)

ルーム日誌

7月 総務委員会 山の自然学研

2日 学生会 アルパインスケッチクラブ 会報編集委員会

3日 山岳地理クラブ

4日 科学委員会 自然保護委員会 長期改善計画プロジェクト

6日 百年史委員会

8日 新日本山岳誌 緑爽会 アルパインスキークラブ

9日 常務理事会 アルパインスケッチクラブ

10日 理事会 つくも会

11日 集委員会 指導委員会 遭難対策委員会 97同期会

12日 百年史委員会

15日 総務委員会 資料委員会

16日 百年史委員会 インターネット小委員会 二火会

00同期会

17日 山研運営委員会 三水会

18日 科学委員会 山の自然学研究会

19日 学生会

22日 自然保護委員会

23日 自然保護委員会 アルパインスキークラブ

24日 集委員会 図書委員会

25日 アルパインフォトクラブ

26日 98同期会 青年部

29日 インターネット小委員会 高尾の森づくりの会

30日 海外登山基金委員会 7月来室者628名

◆編集後記◆

●今年の夏は北海道を除いて好天に恵まれ暑い日が続きましたが、皆さんの登山はいかがだったでしょうか。

●私は9月上旬に故郷大雪山に行ってきました。天気も良く高校生以来30数年振りの山を楽しみました。季節がずれていたの登山者も少なく、のんびりと歩いてきました。例年より早く初雪があった後で山小屋は冬の準備に大忙しでした。(今村千秋)

日本山岳会会報 山 688号

2002年(平成14年)9月20日発行  
発行所 社団法人日本山岳会  
〒102-0081  
東京都千代田区四番町5-4  
サンビュウハイツ四番町  
TEL 東京(03)3261-4433  
FAX 東京(03)3261-4441  
ホームページ: http://www.jac.or.jp  
E-メール: jac-info@jac.or.jp  
発行者 大塚博美  
編集人 今村千秋  
印刷 株式会社 双陽社